（別紙３）

公表　児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	コロル城東			
○保護者評価実施期間	令和　７年　２月　２３日	～	令和　７年　３月　１５日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）		（回答者数）	
○従業者評価実施期間	令和　７年　２月　１０日	～	令和　７年　３月　１０日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7	（回答者数）	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和　７年　３月　３０日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動スペースについて、棚やパーテーション・マットをを用いて視覚的に区切りがわかるようにする事で、取り組みによって場所を移動し、活動に集中できるようにしている。	児童の状態や活動に応じて、個別スペースを設定するなどして、活動に集中できる環境作りを行っている。	個別療育については、現状よりもさらに区切られたスペースを用意し、マンツーマンでの療育に集中できる環境設定を行っていきたい。
2	活動の様子や療育の紹介などを掲載したお便りの発行、LINEを活用して保護者様へお子様の様子を写真や動画を送ってお伝えするなど、施設の様子をより細かくお伝えする工夫をしている。	SNSでのブログ掲載に加え、毎月、児童の写真付きのお便りを発行している。 活動への取り組みの様子、療育内容の紹介等を掲載し情報発信と、親子でのコミュニケーションのきっかけになるよう継続的に取り組みしている。	保護者様へのお子様の様子を伝える際の工夫や心掛けを職員間で共有し、より分かりやすくお伝えする事で安心して通所していただける施設にしていく。
3	ランチやおやつのクッキングに取り組む機会を多めに設定し、様々な角度から色に対する経験ができる環境を作っている。	食材に触れる・調理体験・食材に対する知識を得る・準備から片付けまでの経験等の目標をもとに取り組みを行い、LST(ライフスキルトレーニング)に取り組むと共に、偏食や好き嫌いの軽減。保護者の負担軽減を目指している。	食育学習を取り入れるなど、より詳細な取り組みを行っていきたい。 アレルギーに対する除去食対応についても、継続して行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	近隣に住宅や集合住宅が隣接している環境のため、活動の際に出る声や物音が、影響を及ぼしてしまう事がある。 個別療育について、環境作りの工夫が必要。	活動内容によっては、近隣住宅への騒音へと繋がる場合がある。 完全な個室がプレイルーム中にないため、個別療育のやり方について工夫が必要。	施設の構造上、大きな物音が出る活動や、活発な活動を行うと、近隣住宅への騒音につながってしまう場合があるため、活動の内容と防音設備については、今後対策を検討する必要がある。 棚やパーテーションを活用し、個別療育の空間確保を行いたい。
2	毎日の業務連絡や療育・児童についての共有を行うために必要な時間の確保が現状難しい。	午前中からの利用児童がある場合が多く、始業・終業準備、個人業務等もある為、出勤職員で集まる時間の確保が難しい日が多い。	日々の児童の様子や療育の様子、保護者様とのやりとりの内容など、終業もしくは始業前での情報共有の内容について充実を図る。掃除等にかける時間を調節し、情報共有のための時間を設ける。
3	他施設や園での児童の様子について、情報共有をする機会の確保に課題を感じている。	送迎の時間や担当者会議以外の時間で、他施設や通所中の園と情報共有を行う時間を作ることができていない。	児童について気になる点や共有したい事が出てきた際には、保護者に確認をとった上で関係機関との情報共有を積極的に行うことを心がけていきたい。 必要に応じて保育所等訪問支援の案内を行う等、対応をしていく。